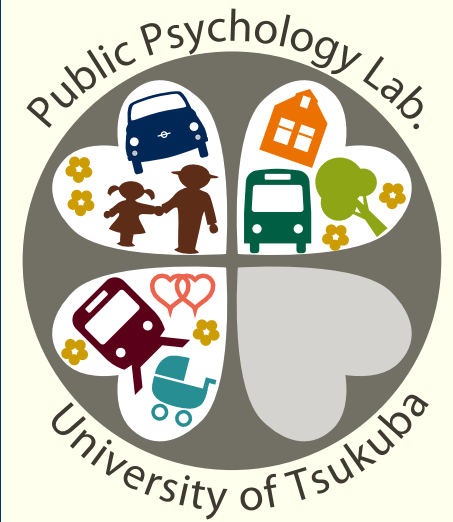


# 奥入瀬溪流の車両規制導入に向けた関係主体の受容意識に関する質的・量的研究

筑波大学大学院システム情報工学研究科 木村航太  
国土交通省東北地方整備局青森河川国道事務所 木村慎二  
筑波大学大学院システム情報系 谷口綾子



## I. 背景と目的

### 奥入瀬溪流の交通問題

日本でも珍しい溪流と並んで歩ける景勝地  
国指定の特別名勝  
天然記念物

奥入瀬溪流

毎年10月、11月を中心に多くの観光客が訪れる青森県を代表する観光地

交通量の多い国道

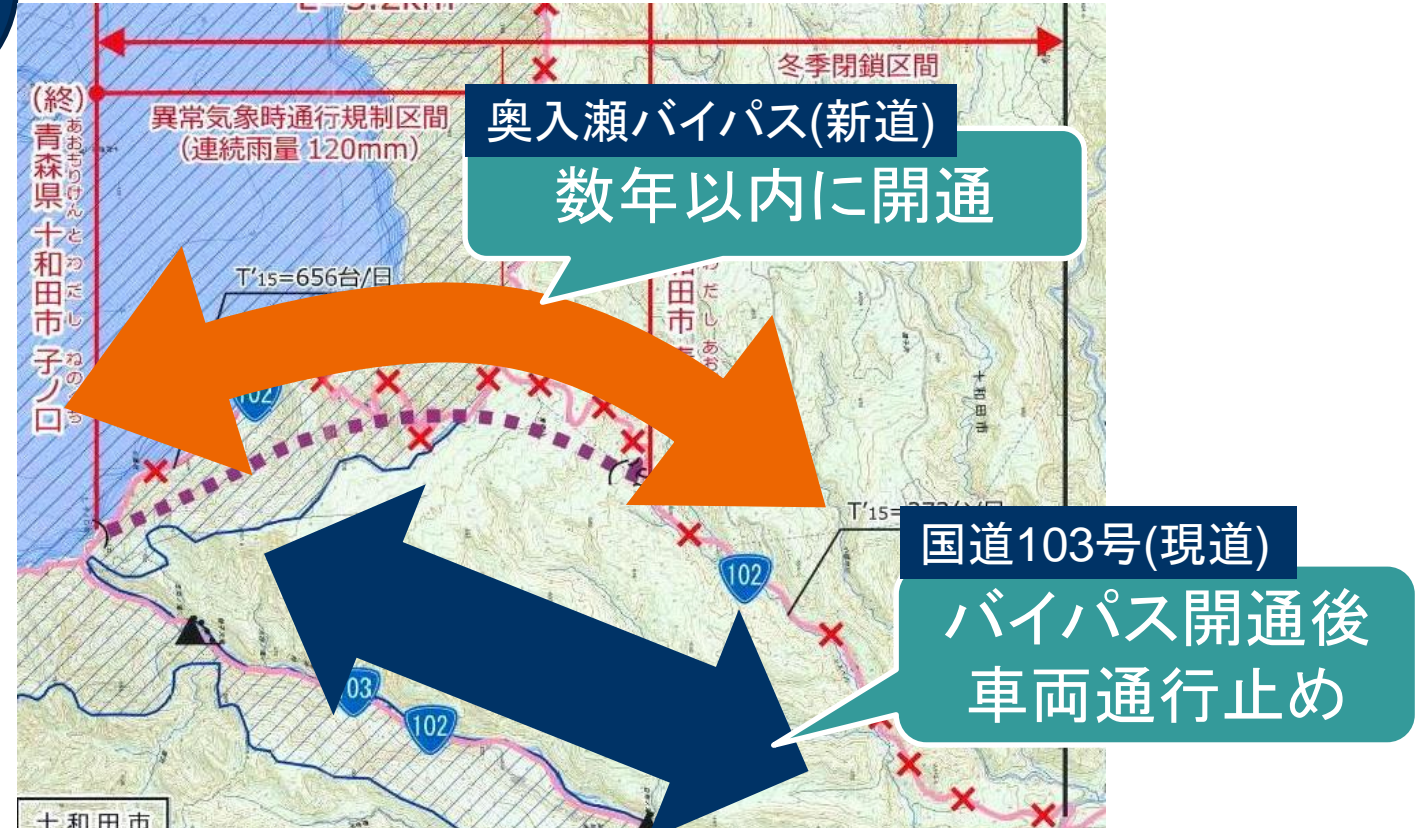
奥入瀬溪流

走行業務用車、観光バス、マイカーによる渋滞

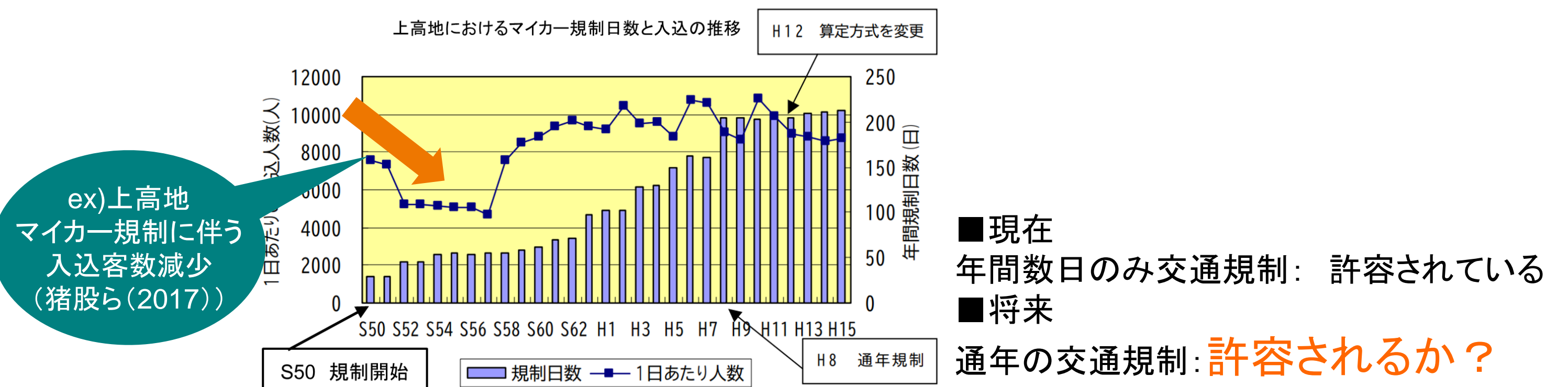
車で観光が増加し、風情や音環境に問題が...

### 奥入瀬で観光MM実施

主体	国土交通省	青森県庁
日時	毎年8月第3土、日曜日	毎年10月第4土、日曜日
名称	奥入瀬せせらぎ体感プロジェクト	奥入瀬エコロードフェスタ
規制ルール	マイカー交通自粛	マイカー交通規制



### マイカー交通規制に伴う懸念



### 目的

溪流近隣居住者、運輸事業者、行政、観光客など様々な関係主体を対象に、

目的1	受容意識・変容可能性を把握するとともに、受容意識の規定因を検証
目的2	流入規制の提示方法の差異が、受容意識に与える影響を把握

## II. ヒアリング調査概要

### ヒアリング調査(溪流近隣居住者・運輸事業者・行政)

調査方法	調査対象者の職場および自宅に直接訪問し、30分程度の聞き取り調査を実施
調査期間	2020年10月22日(木) ~ 2020年10月28日(水)
調査項目	奥入瀬溪流の利用状況、バイパス建設・交通規制についての認知状況、賛否意識、交通規制が必要となる理由、等

### 調査対象者

ID	年齢	性別	所属	ID	年齢	性別	所属
A	52	男性	運輸(食品等)	H	70	男性	近隣居住者
B	50	男性	運輸(建設機械等)	I	72	男性	旅館業従事者
C	49	男性	運輸(食品等)	J	32	男性	旅館業従事者
D	61	男性	運輸(建設機械等)	K	54	男性	十和田市役所商工観光課
E	31	男性	運輸(工事資材等)	L	56	男性	青森県観光企画課
F	72	男性	近隣居住者	M	41	男性	青森県道路課
G	71	男性	近隣居住者				

\*本発表で掲載のない一部回答者について、表中の掲載を省略

## III. アンケート調査概要

### 調査方法と調査対象

調査方法	観光案内所「奥入瀬溪流館」来館中の観光客を対象に紙面のアンケートを配布し、回答を要請		
調査期間	2020年10月25日(日)	対象者の年代と性別	10代~70代男女
サンプル数	128		

### 調査項目

個人属性	性別、年齢、住所(市町村まで)、奥入瀬溪流の来訪回数(今回が初めて・1~2回・3~5回・6回以上)、自宅から奥入瀬溪流までの交通手段、溪流散策の所要時間または散策予定時間、本日の疲労感		
交通規制導入に関する質問	交通規制認知(はい・いいえ、の2件法)、交通規制導入時の駐車場代支払意思額、交通規制導入時のシャトルバス代支払意思額、交通規制導入時の訪問しやすさ(現在より訪問しやすくなる・訪問しやすさは変わらない・現在より訪問しづらくなるが、また行ってもよい・現在より訪問しづらくなるので、もう行けない)、交通規制への賛同(1: 賛同しない~5: 賛同する、までの5件法)		
心理指標(1: 全くそう思わない~5: とてもそう思う、までの5件法)	公正感	自由侵害感	地域愛着
公正感	交通規制は正しい政策だと思うか	自由侵害感	交通規制は個人の自由を侵害すると思うか
分配的公正	奥入瀬溪流の交通規制は地元/自分に十分なメリットがあると思うか	手続き的公正	交通規制は公正なプロセスの下で進められると思うか
公共的公正	交通規制は、奥入瀬溪流のためになると思うか	地域愛着	奥入瀬溪流を訪れ、愛着を感じているか

## IV. ヒアリング調査結果

### バイパス建設の必要性と賛否について

■運輸事業者

賛成。今の国道は災害で通行止めになったりするので代替の道路が欲しい。

賛成。バイパスが建設されれば物流の人間には良いことしかない。

■近隣居住者

賛成。市街地まで行きやすくなるとありがたい。

賛成。バイパス建設で不利益を被ることは特にない。

■行政

賛成。奥入瀬溪流の環境保全や紅葉時期の渋滞解消のために必要。

賛成。バイパスの建設は1970年代から構想があり、その実現は急務。

バイパスの建設に関して、不利益を被ると回答する例はみられなかった

### 交通規制の必要性と賛否について

■運輸事業者

どちらともいえない。物流のトラックはバイパスがあれば仕事には全く支障ないが、観光客は困るのでは。

賛成。環境保全の観点から規制はすべきだと思う。規制区間内に物資を運ぶ際は簡単には入れるようにしてほしい。

■近隣居住者

賛成。溪流区間が通れなくても特に困らない。

賛成。交通規制により長期的には観光地としての質が上がる。

反対。交通規制を実施したら十和田湖周辺から人がいなくなる。

■行政

賛成。長期的に見れば、溪流の自然価値を後世に繋げるために必要。

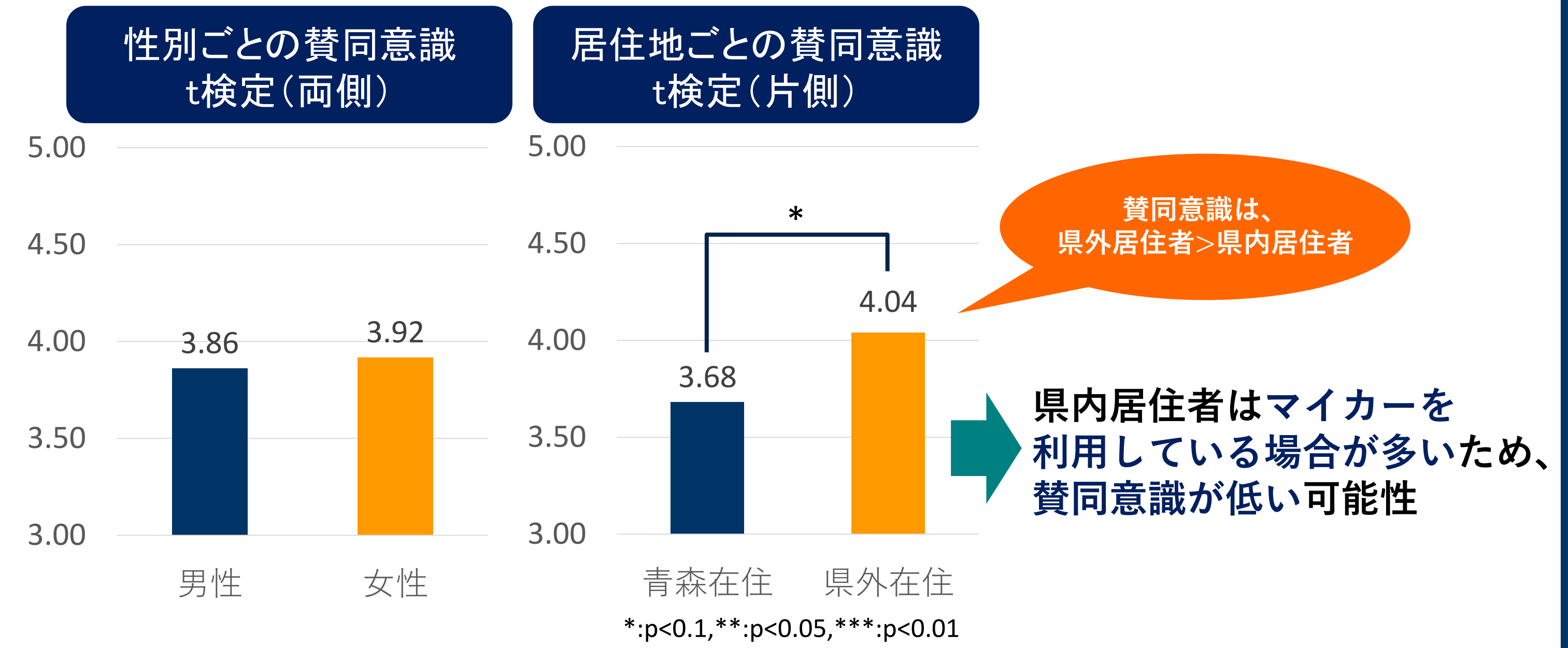
賛成。溪流内を散策する観光客が、自動車の走行音に邪魔されることがなくなる。

観光客および観光業従事者に対する短期的なデメリットについて回答者がみられたが、長期的なメリットについての言及も観察された

## V. アンケート調査結果

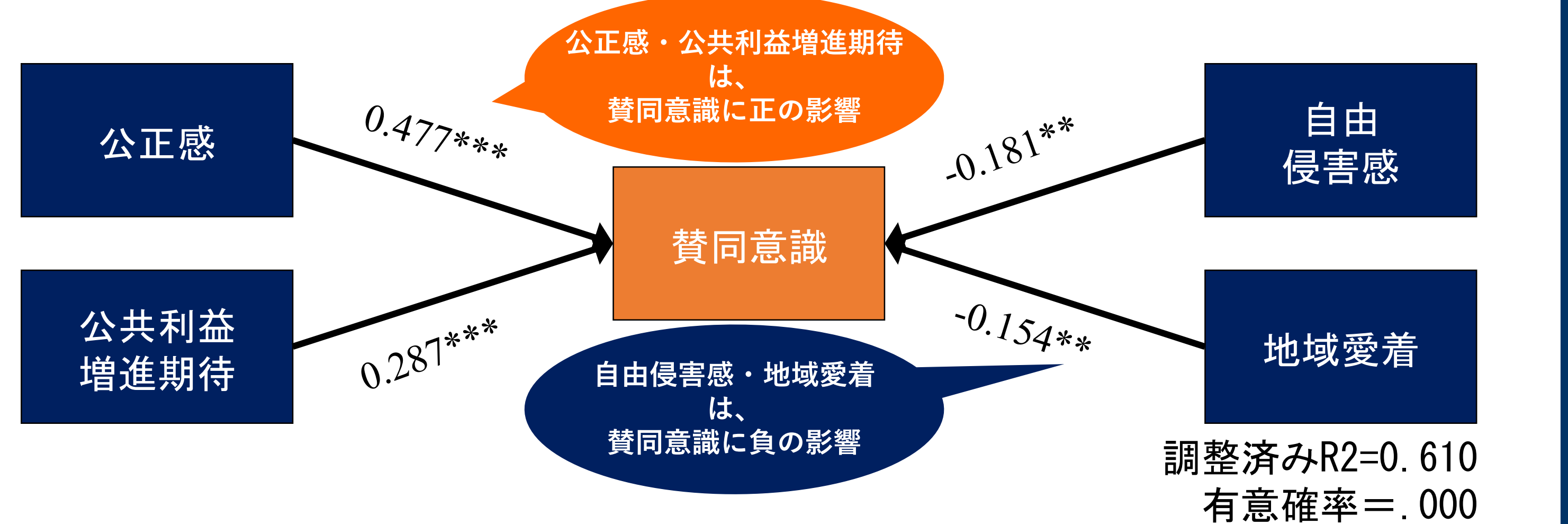
### 溪流来訪者の個人属性ごとの賛同意識

奥入瀬溪流来訪者の個人属性ごとの賛同意識を推定するため、平均値の差の検定を行う



### 溪流来訪者の賛同意識を規定する心理指標の検討

奥入瀬溪流来訪者の賛同意識を規定する心理指標を推定するため、重回帰分析を行う



## VI. 今後の展望

- ・溪流近隣居住者、運輸事業者、行政、観光客など様々な関係主体を対象に、ヒアリング調査・アンケート調査により交通規制に対する賛同意識を検討した
- ・交通規制より観光来訪者および観光業従事者に対してデメリットが生じる可能性が確認され、その傾向はマイカー移動が主となる青森県内居住者において顕著であった
- ・今後の調査では、奥入瀬溪流を観光訪問する可能性のある一般市民を対象に交通規制の賛同意識とその規定因のさらなる検討を行う